

教科目名 景観デザイン (Landscape Design)

学科名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 1年

単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教官 : 亀野辰三

授業の概要 近年、わが国のまちづくりや都市施設づくりにおいては、周辺の街並みや自然環境との調和をめざした「景観デザイン」は必須の知識と考えられている。そこで、本講義では、景観の歴史的・社会的背景と都市における発展の歴史を概観し、景観デザインの必要性・重要性について解説する。また、多変量解析等の景観分析手法も解説し、実際の評価実験結果を用いて、景観評価分析の基礎を学ぶ。そして、景観デザインの中でも、特に、「まちなみ景観」を対象として、古いまちなみ、街路、街路樹、ストリートファニチャー等の景観設計におけるポイントを解説する。		
到達目標 大分高専目標 (E1), JABEE 目標 (d2a)		
(1) 公共施設がおかれるさまざまな環境の中での景観上の問題を思考する能力を身につける。 (2) 景観の分析手法、特に統計解析手法(多変量解析)を理解し、ケースに応じた使い分けができるようにする。 (3) フィールドワークを通じて、観察力、問題発見能力・問題解決能力を身につける。 (4) レポート作成を通じて表現能力を高める。		
回	授 業 項 目	内 容
1	1. 総論	総論として、景観デザインの必要性・重要性を歴史、住民意識の側面から明らかにする。また、景観の基本的用語を学ぶ。併せて土木構造物のデザインのポイントを概説する。
2	1.1 景観の重要性と住民意識 1.2 シビックデザイン概説	
3	2. 景観整備の手法	景観整備の目的・手順・調査・予測の方法を学ぶ。また、景観の評価を行う上で現在一般的に採用されている計量心理学的手法について理解する。簡単な評価実験を行い、多変量解析の基礎を学ぶ。
4	2.1 景観整備の目的・手順	
5,6	2.2 景観の調査・予測 2.3 景観の評価	
7	3. まちなみの景観デザイン	景観デザインの中でも、「まちなみ景観」を取り上げることにする。対象となるのは、歴史的まちなみ、街路、まちなみ、歩行者空間、街路樹、商業施設、ストリートファニチャーである。これらの景観デザインの行う上で、基礎的知識並びにデザイン上のポイントを学ぶ。
8	3.1 古いまちなみ景観	
9	3.2 街路景観の設計	
10	3.3 まちなみ	
11	3.4 歩行者空間	
12	3.5 街路樹 3.6 ストリートファニチャー	
13	4. プレゼンテーション	興味のあるテーマを一つ選定し、プレゼンテーションを行い、参加者で討論する。
14	前期期末試験	
15	前期期末試験の解答と解説	自身の理解力を分析し、わからなかった部分を理解する
履 修 上 の 注 意		(1) まちの中を歩くととき、景観設計がどのようなところに用いられているか注意してもらいたい。 (2) レポート課題とプレゼンテーションは、画像を扱うので、デジカメ等を準備すること。 (3) 学生は日頃から新聞等に目を通し、景観に関する最新情報の収集に努めること。
教 科 書		日本まちづくり協会編、「景観工学」、理工図書。
参 考 図 書		松原隆一郎、「失われた景観」、PHP新書。
関 連 科 目		都市計画、道路工学、交通工学、環境計画、社会システム、地域計画学
評 価 方 法		定期試験の評価(70%)に、レポート課題(20%)、プレゼンテーション(10%)により評価する。また、授業態度により、評価点からその20%を上限として減点する。